

個人投資家にとっての“ESG投資”とは

日興アセットマネジメント チーフ・ストラテジスト 神山 直樹



いま機関投資家の間で話題の「ESG投資」。この投資をどのように考えるべきなのか、少しずつまとまってきたようです。個人投資家のみなさまにも、この投資機会について考えて欲しいと思います。

■ ESG投資とは

投資のプロである機関投資家が、企業の持続的な成長を **E (環境)**、**S (社会)**、**G (ガバナンス)** の視点から精査して銘柄を選び、投資開始後も投資先と対話を続けていくことをESG投資と呼びます。環境と社会については課題に適切に対応しているか、ガバナンスではその課題を解決する事業を推し進める上で戦略を作る基盤となる経営の枠組みを持っているか、に注目します。

引退後の『潤いのある暮らし』を送るために投資をする長期投資家は、世界が求めている環境問題や社会問題の解決策を提案できる企業に投資したいでしょう。そのためには、企業が長期的な視点に立ってESGにおける説明責任を果たしていることを見極める力が必要になるのです。

ファンドマネージャー（運用者）は、企業の業績や短期的な株価の動向だけでなく、企業の目指す姿が事業環境の変化に対応できているか、事業機会とリスクを適切に認識し対応しているか、それを実行する土台となる、取締役会の構成や報酬、実効性の評価がされているか、に注目して投資していくのです。

■ 普通の株式投資と何が違うの？

例えば、台風や水害などの自然災害が増えてきた日本では、被災により直接影響を受ける工場を持つ製造業に加え、損害保険、融資をしている金融機関なども気候変動を事業環境の変化として考えざるを得なくなっています。さらに、人手不足の問題解決と女性・高齢者の活躍を求める社会のつながりも経営の視野に入ってくるはずです。

このように、環境や社会に対して機動的かつ規律を持った経営が求められる時代には、株式投資において、プロの投資家が、投資先の選定や投資期間中にも、ESGの視点からいねいに企業をモニターし、かつ社会を代表して対話をしていくことが求められるのです。

■ 特別に探して投資しないといけないの？

すでに運用している株式投信などの中にも、将来において企業の財務にインパクトがあるESG分野に焦点を絞って、企業を分析し投資する手法を導入するようになってきました。このような変化は、既存投信の運用報告書の中でも、見つけることができます。



ファンドマネージャーは、企業の統合報告書やホームページにあるサステナビリティの情報などを競合他社と比較し、特に将来の売り上げや費用、資産、負債にどのように影響するのかを読み取ろうとします。今後、ESG投資を謳う商品が増えると思いますが、単に寄付など世の中に良いことをする会社の集まりではなく、長期的に世界の課題解決を担う企業に投資する観点で、投資機会を見直してはどうでしょうか。

●当資料は、日興アセットマネジメントが投資についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。●投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。●当資料の図表等はすべて過去のものであり、将来の市場環境の変動等を約束するものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。また記載内容の正確性を保証するものではありません。